産業建設委員協議会記録

開会年月日	令和4年8月29日
開会時刻	午前9時59分
閉会時刻	午前11時03分
出席委員名	◎上村和生 ○井村貴志 三野泰嗣 川口 浩
	北村 勝 野崎隆太 野口佳子 宿 典泰
	世古 明 議長
欠席委員名	なし
署名者	—
担当書記	森田晃司
協議案件	1 第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について
	2 高向小俣線ほか1線整備事業の経過と予定について《報告案件》
	3 所管事業の令和4年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について
説明員	都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事、基盤整備課長、
	維持課長、住宅政策課長、産業観光部長、産業観光部理事、
	商工労政課長、農林水産課長、農林水産課副参事、情報戦略局長、
	情報戦略局次長、企画調整課長、その他関係参与

協議経過

上村委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り、「第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について」外1件を協議した。

次に、「所管事業の令和4年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について」を協議し、令和4年度の所管事業を5事業程度選定することを決定し、事業の選定については正副委員長に一任することとした。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午前9時59分

◎上村和生委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

本日御協議願います案件は、御手元に配付の案件一覧のとおりであります。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

【第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について】

◎上村和生委員長

それでは、「第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について」を御協議願います。当局からの説明をお願いします。

都市整備部長。

●荒木都市整備部長

本日は御多用のところ、産業建設委員協議会を開催いただき誠にありがとうございます。本日の案件は、ただいま委員長から御案内のありましたとおり、「第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について」の協議案件が1件と、報告案件が1件でございます。

詳細につきましては、担当部署から御説明申し上げますのでよろしく願いいたします。

◎上村和生委員長

企画調整課長。

●中内企画調整課長

それでは、「第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について」、御説明申し上げます。

お手元の資料1-1を御覧ください。本件につきましては、平成30年度から令和3年度までを計画期間とする第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括につきまして、御協議いただくものでございます。

「1 第3次伊勢市総合計画前期基本計画」の(1)計画の位置づけを御覧ください。基本計画は、総合的かつ計画的な市政の運営を図るための最上位の計画である、第3次伊勢市総合計画において、基本構想に掲げますまちの将来像を実現するための施策の基本的な方針等を体系的に示したものでございます。

(2)にありますとおり、前期基本計画の計画期間につきましては、平成30年度から令和3年度までであり、令和3年度末に計画期間が終了したところでございます。

(3)計画の構成でございますが、前期基本計画は、政策分野を8つに分けて分野別計画を置くとともに、各政策を横断する重点的な課題について、7つのまちづくりの主要課題として位置づけております。

「2 総括報告」を御覧ください。(1)総括の目的に記載のとおり、令和3年度末に前期基本計画の計画期間が終了しましたことから、成果や積み残した課題等を検証することで、今後の市政運営の改善につなげるため、総括を行ったものでございます。資料1-2がその総括報告書となっておりますので、併せて御高覧ください。

(2)総括方法、①全体総括について、御説明いたします。資料1-2の1ページを御覧ください。中段の2、総括評価にありますとおり、計画の進行管理における新型コロナウイルス感染症の影響について整理をいたしております。また、裏面の2ページにおきましては、まちづくりの主要課題及び分野別計画、それぞれにつきまして、全体的な評価等を整理してございます。

5ページを御覧ください。まちづくりの主要課題の総括評価でございますが、1の子どもを産み育てやすい環境づくりを例に御説明させていただきます。

上段、総合基本計画の記載内容につきましては、前期基本計画に記載されております内容を記載しております。中段のひし形、主な取組および新規取組には、課題解決のために4年間に行ってきた主な取組や新規取組について記載をしてございます。また、下段のひし形の取組の成果等につきましては、課題を取り巻く状況の変化や現れた成果等を整理しております。シートの見方については、4ページにも記載しておりますので、御参照ください。

続きまして、21ページを御覧ください。分野別計画の総括評価でございます。各節ごとにシートを作成しており、地域コミュニティのシートを例に御説明申し上げます。

大きく3つの要素で評価しており、それぞれ、A・B・Cで評価をしております。上段枠囲いの左側にCと記載しておりますが、これは、この節の総括評価となりまして、下にございます数値指標及び成果指標の達成状況を参考としながら、そのほかの取組等も含めました施策全体の進捗度を評価したものでございます。その右側の欄にあります総括評価に対する説明としまして、節の4年間の成果・課題を整理しております。さらにその右側には今後の取組の方向性を記載してございます。

シートの中段、節の目指す4年後の数値指標の進捗状況として整理をしております。さらに下段に記載しておりますが、重点課題の成果指標の進捗状況でございます。こちら2

種類の指標の評価につきましては、目標値に対して達成できたかどうかを基準としまして、機械的に評価を行っているものでございます。また、めくりました次ページには、この節ににおけます実施事業について記載しております。シートの見方につきましては、20ページにも記載しておりますので御参照いただければと存じます。

一番最後のページでございますが、105ページをお願いします。各節における評価の一覧となっておりますので、御参照いただきますようよろしくお願いいたします。

資料1-1の1ページにお戻りください。

下段でございます、(3)中期基本計画への反映についてでございます。令和4年7月に策定をしました中期基本計画の策定過程におきましては、前期基本計画の中間総括を実施するとともに、その後も市政を取り巻く状況等の変化を適時反映しながら、中期基本計画を策定したところでございます。このことから、この度の総括報告において整理しました今後の方向性につきましては、中期基本計画において記載した方向性等と概ね同一となっております。

なお、先ほど御説明いたしました資料1-2の総括報告に記載しました進行管理上の課題につきましては、中期基本計画の進行において、解決を図ってまいりたいと考えております。

資料1-1の裏面「3 総合計画審議会における意見等」を御覧ください。令和4年度第2回伊勢市総合計画審議会を、令和4年7月22日から8月1日に、書面審議により開催し、本総括報告に対する意見等を聴取してございます。意見の内容及び意見に対する市の考え方については、資料1-3に整理しておりますので、御高覧ください。

資料1-1の2ページ、下段のほうにございます、各所管別対象箇所につきましては、資料1-2総括報告書について、各常任委員会の所管について整理した表となっております。

以上、「第3次伊勢市総合計画前期基本計画の総括について」御説明申し上げます。何とぞ御協議賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◎上村和生委員長

資料1-1の裏面の各所管別対象箇所をお開きください。ただいまの説明に対しまして、この後資料に沿って御協議をいただきますが、質疑・応答は、「Ⅰ 全体総括」、「Ⅱ まちづくりの主要課題 総括評価」の産業建設委員会関係分、「5 防災・防犯・消防（「施策4 交通安全」）」及び「6 産業・経済」と、「7 都市基盤」及び「評価結果一覧」の産業建設委員会関係分の2つに分けて行います。

なお、質疑は資料1-2に加え、資料1-3の伊勢市総合計画審議会意見等一覧につきましても、併せてお願いをします。

それでは資料1-2、1ページから2ページの「Ⅰ 全体総括」、それから3ページから18ページの「Ⅱ まちづくりの主要課題 総括評価」の産業建設委員会関係分、次に71ページの「5 防災・防犯・消防（「施策4 交通安全」）」及び73ページから87ページの「6 産業・経済」につきまして御発言はありませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

全体総括のところのまず、活字なんですけど、すごく何か漢字が寄っていて僕は読みにくいと思ったんですけど、皆さんこれはもう常識的な話なんですか。例えば、1—1を見てみたら、字の間隔もきちっとしとるし、読みやすいんやけども、何か全体総括と1、2ページの活字だけは全然違うような仕様でやっとするんかなと思ったんやけども、このあたりはこれからこんな字の間隔というか、字を使っていくということなんですかね。

◎上村和生委員長

企画調整課長。

●中内企画調整課長

ただいま御指摘をいただきました見やすさという部分なんですけれども、こちらのほうUDフォントということで使わせていただいているんですが、ちょっと文字の間隔が、御指摘のとおり詰まってる部分もあろうかと思っておりますので、そのあたり、見やすいようにといひますか、文字間等についてもしっかりと確認をして整理をさせていただきたいと思ひます。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

それで総括評価のところ、分野が8分野ある中で総括っていうことはなかなか難しいわけなんですけれど、できたら総括のこの評価についても、分野ごとの何か評価をきちっとやってほしいなというのがあったんですけど、分野別計画の中でも達成したかどうか、まだおおむね進んだというような状況で評価がされておるんですけど、この中を細かく、また質問しますけど、見てみると、誰の目線に進んだ評価ができたかとか、おおむね進んでいるよっていうような、誰の目線なんやっていうことがちょっと分からんのも多少あって、そのあたりをどのようにやられておるのかちょっと確認をしたいと思うんですけど。

◎上村和生委員長

企画調整課長。

●中内企画調整課長

評価の考え方でございますが、内部評価といいますか、当局による自己評価というところにまずはなろうかと思ひます。その上で、審議会からも意見をいただきながら、自己評価の適切さといいますか、という部分について確認をいただく、そういった流れになろうかなと思ひます。

もちろん評価の視点におきましては、その目標とすべきところ、市民生活の向上であり

ましたり、満足度の向上、そういった視点を持って計画がつくられておりますので、そういうことを意識しながら自己評価を行っておる、そのように考えておるところでございます。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

今答弁いただきましたけれども、自己評価というのはあくまで厳しく評価をするというのがやっぱり正しいやり方だと思うんです。もう少しこれをやりたかったということですね。満足度の話があったけれども、満足度はやっぱり市民側から見て満足であったかどうかの話だから、もっと厳しい目がそこには注がれるわけでしょう。ということは、何かおおむね進んだってという評価があるけど、そのおおむねというのは満足度で取って、どの程度の話なんかなということをおおむねを我々は疑うわけさ。やっぱり市民の目線でいろんなものを評価してるかということ、ちょっとそのあたりは個々の問題にするとどうなんかなということがあって、やっぱり職員の中の内部で満足したかどうかなんていうのは、私はもう予算を決めて、それを実行してもらったからこれ当たり前の姿勢なんさ。これ完成するまでに職員間でようやくよなっというて言うのはそれはもう大事なことです。でもそれはあくまで職員間の中の、この庁内の話であって、それを市民がどういうふうにしてそれを満足度として評価したんかとか、そこが大事であるわけなんで、そのあたりが非常に何か評価の在り方についてもどうかなということを感じたんやけれども、そのあたりどのような考え方でしようね。

◎上村和生委員長
企画調整課長。

●中内企画調整課長

ただいま御指摘をいただきましたとおり、市民の皆さんがどうお感じいただけるか、このことが非常に大事だということについては、私どもも認識をしております。まだまだ自己評価という部分の中で認識が甘いんじゃないかと、そのような御指摘かと思っております。今回はこのような形での評価をさせていただいておりますが、今後の市政運営の中でも、そういった厳しい目線といいますか、ということ踏まえながら、現状を評価し、施策推進を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

最後ですけど、これは前期評価としての結果が出ました。中期をまたつくっていただ

いて、もうこれ、もうスタートを切つとるわけなんですけれど、前期評価の問題がいかに中期のほうで解決できるかっていうような言い方するといけませんけども、もっと前に進めるような政策として解決できたのかっていうようなことに結果的にはなっていきたいと思うわけですね。そのあたり、前期で反省点というのか、評価、課題が少し見られなかった。またちょっと目線を変えて、こちらの事業へ振り替えてやろかというようなことが多分起こったんだらうと思つとるんですけど、そのあたり重点的にどのように次の課題として、新たに設置されたのか、ちょっと確認をしたいと思います。

◎上村和生委員長

企画調整課長。

●中内企画調整課長

この前期の総括を踏まえて中期基本計画、どう進めていくかという御質問かと思えます。ちょっと全般的なといいますか、での答弁になりますけれども、この前期の期間におきましては、大きいところで特に新型コロナウイルスの影響ということで当初目標としていた部分、もしくは想定していたその取組方法といいますか、十分実現できなかった部分もございます。

一方でデジタルの推進など、そのような中でも、どのように進めていくかということを試行錯誤しながら進めてきた部分がございますし、まさにそれが大きな政策の柱になった。そのようなこともあり、中期基本計画のほうでも、そういった考え方を整理して策定してきたところでございます。

まず、C評価など、十分進捗が果たせなかった部分については、当然中期基本計画の中で達成を見込んでいくということもございますし、御指摘のとおり、社会のニーズが変わったといいますか、違うことが必要になってきた、こういった部分がございますので、前期の総括を踏まえつつ、先日お示ししました中期基本計画、これの推進を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

先ほど宿委員もおっしゃったように、この後中期がもう既にある話なので、この総括の中で、ちょっと簡単に幾つかだけお聞かせをいただければと思います。

まず1つ目が集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備、12ページですね。ここの話でちょっとだけ教えてほしいんですけども、これの反対側の目標がこっちに、成果表にもあるかなと思うんですけど、成果表のほうを見ると中心市街地のにぎわいとか交通量等調査とか、それぐらいは書いてあるのかなと思うんですけども、この中に緩やかな居住誘導という言葉がどこかで出てきとると思うんですけども、取組で中心市街地の再生事業と

かをしているのは分かりますし、ここに箱物行政があまりよろしくなかったのも、あんまり非効率の箱物を公共投資を改善させていこうと、都市経営コストの増を減少させていこうということを書いているのは、ここまでは理解するんですけども、実際これ、前期が終わって来て、その緩やかな居住誘導というのはどれくらい進んだのか教えていただければと思います。

◎上村和生委員長
都市整備部参事。

●中村都市整備部参事

すみません。緩やかな居住誘導ということの御質問です。その数値的に幾つから幾つにというようなものをなかなかつかむのが難しいような状況でございまして、建物がどこに立地しているかという数字については、こちらでも把握をしているところです。ただ具体的にそれがどれくらい進んだのかというのはいまだ把握できていないような状況にはなっております。

この業務につきましては、立地適正化計画というようなものがございまして、昨年度、それから今年度で見直しの作業を行っているところです。いろんな方からなかなかその計画の周知もされてないというような御意見もいただいておりますので、今度その計画策定しましたら、市民の皆様にも分かりやすいような形で周知して、今後、さらに居住誘導のほうを図られていくような形で進めていきたいと、このように考えております。以上でございます。

◎上村和生委員長
野崎委員。

○野崎隆太委員

先ほども言ったように中期の話がある前提の話をしていきますので、これ以上は言いませんけども、ただ、ちょっと緩やかな居住誘導というのが、言葉では幾つか出てきたりだとか、課題としては上がってきてるんですけども、実際に進んでるかどうかというものの成果がちょっとつかみにくい、見にくいかなというふうに思います。

当然問題として、極端な居住誘導を進めてはいないという現実があるので、難しいことは理解をしてるんですけども、ただ実際、地図を見てどんな形で今、町が残ってるのかとか、そういったことは常に意識をしていただければなというふうに思います。

もう一点、これある程度出尽くされた議論だと思うんですけども、農林水産業の推進のところで、お伺いをしたいんですけども。

◎上村和生委員長
何ページですか。

○野崎隆太委員

73ページ。

〔「委員長、個別のやつもみんな一緒にやってよろしいの。評価云々ということから、また、分けてやるのかなと思っと思ったんやけど。」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

今回の項では「まちづくりの全体総括」と、「まちづくりの主要課題の総括」、それから、「5 防災・防犯・消防（「施策4 交通安全」）」及び「産業・経済」というところでひとつ切らせてもらいたいと思いますので、お願いします。

あとのほうで「都市基盤」及び「評価結果」の一覧のほうから御質問いただきたいと、2つに分けてやりたいと思いますので、あとの項目になろうかと思っています。

○野崎隆太委員

なるほど、分かりました。ここで一回終わるわけですね。分かりました。

◎上村和生委員長

ほかに。よろしいですか。

違つとる。ごめんなさい、後の項目になると89ページから100ページ、それから、105ページの評価一覧ですので、今のところをお願いします。今のところすみません。申し訳ございません。

○野崎隆太委員

続けます。失礼しました。

これ、あくまでも総括で今までも出てきてる議論なので、あえて聞かせていただくんですけども、この農業就業者数と漁業就業者数の②番のところです。見てのとおりですけど、平成30年度から令和3年度までの4年間で、大体3分の1ぐらい漁業者の就業者が減ってるんですけども、簡単に感想だけお聞かせいただいでよろしいですか。

◎上村和生委員長

農林水産課長。

●野中農林水産課長

私から農業についてお答えさせていただきます。

後ほど漁業については副参事のほうからお答えさせていただきます。

○野崎隆太委員

漁業だけで大丈夫です。失礼しました。

◎上村和生委員長

農林水産課副参事。

●徳田農林水産課副参事

漁業者数の減でございます。確かに、基準日から約38%の減となっております。やはり、漁業就業者数につきましては、やはり全国的に見ても、一貫して減少が進んでいるといった状況であります。増加に転じることができれば大変望ましいことではございます。しかし、少しでも多くの新規就業者を確保したいということで、何とか歯止めをかけたいというふうなことで取組を行ってきたところではございますが、なかなか歯止めをかけるまでは至っておりません。そういった中、特に令和2年から令和3年と、大きな減少はございますが、ここにつきましては、実績のない組合員等の整理を行ったためと聞いております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

実績のない組合員の整理ということで、安心はしておりませんが、最初の実数が違ったということですね、簡単に言うと。それに誰に非があるかという話ではなくて、最初の実数が違ったっていうのが正しいかなと思うんですけども、例えばですけども、実数が違った、幽霊組合員というとあれですけども、活動のない人たちが変わったって、これで市の目標であるとか施策とか、例えば今までの交付金額の見直しであるとか、そういったことっていうのは、内部の作業としては、何かいろんな変化があったのかどうかだけ、もしあればお聞かせください。

◎上村和生委員長

農林水産課副参事。

●徳田農林水産課副参事

すみません、市の内部の事務として、組合員の減少に対しまして、極端に変わったというふうなことはございません。ただ、漁協のほうにおかれましては、そういった事務の効率化とかいうふうなところがちょっと図られたということは聞いております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

向こうのほうではプラスの効果が多少あったところですね、分かりました。けどもその、この資料だけ見ると壊滅的なダメージを受けてるように僕にはやっぱり見えるので、そのあたりは少し丁寧な説明もここにはあってもいいかなあというふうには思います。

もう一点だけ、これで終わりますけど、81ページまでが対象ですよ。81ページと併

せて、その2つ前の77ページなんですけど、この活気があるとか、伊勢市の神宮参拝者数の話なんですけども、C評価がつくのはコロナなので仕方ないかなというふうに思っております。これは当然短期としてはそうですけども、ただ、どんなものでもそうですけど、何かきっかけで何か減ぶと言うとあれですけども、衰退していくってというような、というのが歴史の中では当然あることで、短期的にコロナで今回C評価がつけましたとか、単年度でつけましたとか、この4年間で急に下がったって、ここまでは分かるんです。

ただ、これは回復不可能な傷なのか、それとも回復できるような傷なのか、によっては、これからのつくっていく施策がそもそも違ってくるのかなというふうにも思います。なので、そのあたり、どんなふうにこれがどれぐらいの致命的な傷なのか、これからの施策としては大きな変化を、例えば、極端なことを言えば、ソフトやったものがハードに変わるようなことをせないかんのかとか、そういうことも含めて、今までここにはリピーターを増やすと書いてありますけども、リピーターじゃなくて、そもそも新規を増やさないかんとか、またゼロからつくらないかんという話なのかもしれませんし、そのあたり、このにぎわいっていうところと、それから、これ神宮参拝者数か、総括的にもでも構わんで、どんな評価をされてるか、このコロナの影響というのがどれぐらいの影響を受けるのかっていうのをちょっと、もし今お考えがあればお聞かせください。

◎上村和生委員長
商工労政課長。

●東世古商工労政課長

にぎわい創出というか、にぎわいの減少の部分でございます。委員仰せのとおり、やはりそのコロナ禍によりまして、まずそもそもはやっぱりイベントが行われないうところで、にぎわい、特にこの77ページのアンケートにつきましても、やっぱり活気があると感じていると言われると、活気がないというふうに答えていただくのかなというふうには思っております。

現在も第7波と言われる中で、いわゆる移動制限とか、いわゆるいろんな制限がない中でもやはり感染者数が一定数出てくるという中で、いわゆる出控えと申しましょうか、自粛をされているという部分もでございます。これは市民の方々だけでなく、観光客のほうもやはりそのような傾向があるかと思えます。

ゴールデンウィークが明けた頃、第7波と言われるのが始まる前は、観光客、やっぱり一定数戻ってきたかなという私ども期待感もありました。実際、商工会議所でやっていたいております景況調査を見ましても、どちらかという前向きなというか、回復しつつあるというようなお答えをいただく事業者数も確かにございました。

ただ、なかなかこれはやはり、思うように回復していかない、人の動きが戻らないというところもございますので、これまでも交付金等を使いまして、いろんな受入れ環境の整備、こういったものも行ってまいりました。そういった中でこれまでの事業、そういったものも含めて複合的にまた受入環境を整えつつ、安全で安心なという部分も含めまして、またにぎわいにつながっていくような、また経済も回っていくような、そういった形に持

っていけばなというふうに考えております。以上でございます。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。個別の政策については、ここで議論する場ではないと思うので、これ以上は申し上げませんが、先ほど言わせていただいたとおり、短期の評価としては、C評価がつくとか、コロナが原因でというのは分かるんですけども、1年延長されて来年度か、事業者としては、コロナのときに借りたお金の返済が始まるのが来年度ですね、来年度から始まったりするので、長期としては、先ほど取り返しのつかないダメージと言いましたけど、お店がばたばた来年から潰れるという話も実際予測では、事実か正しいかどうかは別としても、返済が始まったら難しいんじゃないかなってというような話も全国的にやっぱり聞かれるときもありますし、影響がこのC評価がそのまま、次の期に、コロナやから仕方ないわというんじゃないくて、そのために次に何が起きるのかということをぜひ先に予測をして、せっかくなんでこのC評価を使っていたら、なんでCやったのかっていう分析をしていただければなというふうに思います。以上です。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

少し戸惑ってしまいまして申し訳ございませんでした。

ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎上村和生委員長

御発言もないようですので、「I 全体総括」から「6 産業・経済」についてはこの程度で終わります。

説明員入替えのため暫時休憩いたします。

休憩 午前10時32分

再開 午前10時33分

◎上村和生委員長

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、89ページから100ページの「7 都市基盤」及び105ページの「評価結果一覧」の産業建設委員会関係分につきまして、御発言はありますか。

宿委員。

○宿典泰委員

89ページの「身近な生活道路の整備に満足している市民の割合」というのはAという

ことになっています。目標が35%ということも、どうかと私は思うんですけど、基準値が33%なので達成したということになるのか。R3では52%やからということなんですけれど、この指標については、市民の満足度ってもっともっと高いんじゃないかなと思うんですけど、これが満足だということやったらあんまりもう整備せんでもええということなんですよね。だからそのあたりのことをちょっと整理をしてほしいなということで質問したいんですけど。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

身近な道路に関する市民の満足度につきましては、平成29年度のアンケート調査に基づいて目標値の設定をしております。ただし、平成30年度以降、50%を超える評価をいただいておりますので、今後といたしまして満足度の目標値の考え方を検討させていただきたいと思います。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

私は厳しい目線をさせてもらおうと、いつも申し上げますけれど、鉄道高架で南北が分断された中で評価がされておるわけなんで、例えば分断された状況の中のことが視点として、市民の方に聞いたときにすごく満足はできていないという状況が、僕は全員が返ってくるんじゃないかなと、こう思ったりなんです。

だから身近な生活道路というのが、自分とこの前の道路であったり、市道であったりというだけのことではないのかなということがあるので、ちょっとそのあたりのことは、少し、アンケートの取り方も含めて確認をちょっとしてほしいなということで要望申し上げておきます。

それと、通学路の安全のことでAと出ました。ちょっと残念なことに、広域の中でその桜浜中学校への交通安全プログラムかな、あれに関係するようなところで、道路整備のことが出てきました。十分、我々としては、桜浜をつくるときに、きちっとそういった道路環境を整備できたんじゃないかなと思ったら、地元のほうからそういうことが出てきたということになった。これもやっぱり市民側から見た差というのは何なんかなと、ここの評価はAということになってますけど、このあたりは、ちょっと整理をきちっとしてもらい必要があるんじゃないかなと、こんなことを感じます。これについてちょっと答弁があったらお願いしたいんですけど。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

通学路安全対策につきましては、各学校、地元を含めました中で、要望事項を、現地を立会いながら整備を進めているところでございます。

桜浜中学校開校に関しましては、そのとき新中学校も含めまして、立会いを行い、関係する通学路を整備したところでございますけども、今回はまだ未整備のところがあったところですので、今後も学校、地元を含めながら、対策のほうを検討してまいりたいと思います。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

答弁は結構やと思うんですけど、やっぱり調査というのか、地元とのアクセスをきちっとやっておったのかなということが不思議になってくるので、それがPTAから出とるものなのか、学校側から出とるのか、ちょっと分かりませんが、結果として何か要望書が出てきて、そういう建物を建てるぞという状況のときに、要望書が出てくると、ちょっとそれはちぐはぐしとるなということを感じるんでね、きちっと調査だけしてほしいと思います。

95ページの「伊勢に住み続けたいと思う市民の割合」という、ここら辺がすごく大事で、やっぱり評価としてはこういう言い方ですと、その環境問題から福祉から学校問題から、いろんな問題の総合評価が僕はこれかなと思ってるんですよ、実際には。ところがC評価ということで、100点にはならなくても、どの部分でこの83点とか、88点の目標はどのような評価でしとんのか、ちょっと担当者の人から聞きたいんですけどね。

◎上村和生委員長

住宅政策課長。

●城住宅政策課長

すみません。この回答自体は、市民アンケートの結果から来ておるものでございます。その辺だけちょっと御紹介をさせていただきたいと思います。

「永住をしたい」というふうに答えておる方、全体の平均ですけども50%の方がお見えです。一方、「分からない」、「特に考えていない」という方が20%見えると、この部分の方の考え方というものがちょっと今、具体的には把握できていないというところが問題かなというふうに思っております。特に考えていないという方でも、このまま住み続けたいというふうに考えてみえる方も多いとは思いますが、この20%の方をどう動かしていくか、どう導いていくかというところに、様々な事業を行っていく必要があるのかなというふうに考えております。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

今お答えいただいて、それはそれですごく納得したんですけれど、やっぱり伊勢に住み続けたいっていうのは、自分が住んでいて、今の現状を満足して住み続けたいかっていうことですよ。それはもう住環境はもとより、福祉の関係やら、医療関係とか、そういったことも充実して、もうそんなよそへ移る意味がないわというところまでの話だと思うんですよ。

だからこれ、ここところがやっぱりC評価っていうのは、何がCなんかっていうことをやっぱりもうちょっと分析をして、それは企画のほうでやっていただくのもどうか分かりませんが、この住宅政策課で、空き家の問題とかそういったことだけで触れとるような話ではないし、アンケートが今の話、住宅政策課のほうでやったということで、それはそれで納得するわけなんですけど、やっぱりもうちょっと高い目線で住み続けたいという意味合いを、ちょっと確認をしてほしいと思うんですけれどね。でないと、伊勢市はこのまま行くとやっぱりもう人口どんどん減っていくということになるし、住み続けたい人を継続して住み続けてもらうということがあれなんでしょう、そういう人はやっぱり、他市他県に発信をしますからね、伊勢はいいとこやよと。子育ても充実しておるし医療もあれだし、住環境はすごくいいからということになるんじゃないかなと、そういう評価ということを目指すのが皆さんのお力やと思うんですけれど、部長いかがですか。

◎上村和生委員長
情報戦略局長。

●鳥堂情報戦略局長

ただいま宿委員御指摘をいただきました。本当にある一面だけにとらわれとったらいかなのかなと。全体像としてどうなんやということ。また、その都度の中で、感覚的な答えを聞かせてもらう場合では変わってくる部分もございます。ですけれども、全体として、今おっしゃっていただいたように、少し引いた形で、俯瞰的な形で今の事業が進んでおるのかどうか、そういう評価ができるように、そういった形の調査の仕方も検討・研究させていただきながら、今後に活かしていきたいと、そのように考えますので、御理解賜りますようお願いいたします。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

御答弁をいただいて理解する部分あるんですけれど、やっぱり僕はここは総合評価なんかと思いがらして、C評価というのがこれは少しがっかりをしています。

空き家問題は、もう本当に目の前にある問題で頑張ってもらっておるので、それはそのようにやっていただきたいし、あとの事業についても非常に頑張ってもらったような評価はあるんですけど、ちょっとやっぱり、こちらの総合的なあれで意見等が出されてますけれども、これの答弁やら説明欄のを聞くと、やっぱりどうかなということが見受けられます。

それはやっぱり個々の部分だけ御指摘しても、申し訳ないと思うんやけど、やっぱり前期計画というのは今回の決算にも絡むことなんで、しっかりもう一度読ませてもらって、私も整理をして御質問をさせていただこうと思ってますので、もう少し庁内だけじゃなくてやっぱり目線をちょっと変えて評価をしていただくということをお願いをしたいと思います。以上です。

◎上村和生委員長

他に御発言はございませんか。

川口委員。

○川口浩委員

93ページの「水位計の設置による水位情報の発信」についてお伺いしたいんですけれども。これ令和3年度までに10か所という目標化を掲げて、前倒しで、さらに23か所設置できたということで、よい取組であると思いますし、Aという自己評価を与えている点についても、私は納得できるんですけれども、これ伊勢市の防災の取組の中で自助・共助・公助ってということが掲げられてますけれども、この水位計に関しては、自助・共助の部分のベースとなるインフラ整備だと思うんですよ。設置ではAというところになってますけれども、やっぱり大事なのは市民、あるいはその町内会、自治会が発信された情報をどう活用していくかっていうところにある、利活用の面にあると思うんですが、その辺で何かこう評価というんですかね、お持ちになっていらっしゃるんでしょうか。

◎上村和生委員長

維持課長。

●濱口維持課長

今、御質問いただきました水位計につきましては、当初10か所の設置ということで目標を立てさせていただいたんですけども、安価なものがあるということで、23か所に広げさせていただきました。

情報発信も今行っておるんですが、今お伺いのように、これを今後どういったように使っていくかというのが一番大きな問題であります。設置しただけで終わりではないとは私どもも考えております。今後これを使って、皆様がどのような避難をしていただくとか、暗い夜の中、見に行かなくてもいいように、この水位計を見ていただくようなことで周知も行って、活用のほうも併せて行っていきたいと考えてますので、よろしくお願ひします。

◎上村和生委員長

川口委員。

○川口浩委員

日頃は小さな川だけれども、局地的な豪雨で一気にあふれるというような、その地域住民にしか分からないっていうとあれなんですけれども、というようなところにも設置していただいている、非常にこれ避難という面でもね、有効だと思うんですけれども、ただやっぱり一方で、地域住民の方から聞いていると、何か昔、過去に聞いたことがあるとかいうレベルで、実際これ見るとスマホとかでね、見れますし、私もよく見てるんで、非常に便利でね、有効なものであると思うんですが、利活用に関してやっぱり、きちんと政策を立てていただいて、地域住民に周知徹底していただければなと思います。以上です。

◎上村和生委員長

御発言よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御発言もないようですので、「7 都市基盤」から「評価結果一覧」についてはこの程度で終わります。

以上で本件についての協議を終わります。

【高向小俣線ほか1線整備事業の経過と予定について《報告案件》】

◎上村和生委員長

続いて、報告案件に入ります。

「高向小俣線ほか1線整備事業の経過と予定について」当局から報告を願います。

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

それでは、「高向小俣線ほか1線整備事業の経過と予定について」御説明申し上げます。

現在、高向小俣線は、橋梁部の詳細設計と工事につきまして、令和元年度に橋梁架替事業に関する協定を三重県と締結し事業を進めております。このたび、橋梁詳細設計がおおむね完了したところ、工法の見直しや事業費の変更が生じてまいりましたので、今年度から橋梁工事に着手していくため、詳細設計の内容に合わせた協定を三重県と締結するに当たり、これまでの経過と今後の予定とともに、事業の変更内容を御説明申し上げます。

資料2の1ページを御覧ください。まず、1の「事業の目的」でございますが、老朽化が著しい現在の宮川橋の代替機能を持つ本路線を、県道鳥羽松阪線の度会橋周辺の渋滞緩和、宮川左岸と右岸の生活圏を結ぶ交流軸、さらには、地域の安心に繋がる機能を担う道路として整備するものでございます。

次に、2の「これまでの経過」につきましては、平成29年度に道路事業として事業採

択されて以降、橋梁予備設計、道路詳細設計、用地測量や用地取得等を行い、令和2年度から三重県との受委託契約による地質調査及び橋梁詳細設計を進めてきたところです。

また、今年度から工事に関する受委託契約を結び、右岸側高水敷の橋脚工事に着手していく予定です。市では道路部の用地取得を進めておりまして、現在の用地取得率は約72%となっております。

次に、3の「事業の主な変更内容」でございます。（1）の工事内容の変更につきましては、①としまして、橋梁にかかる荷重を伝達させるために橋脚と橋桁の間に設置される支承という部材につきまして、橋梁詳細設計で実施した解析の結果、免震ゴム支承から複合機能型免震ゴム支承への変更となります。

次に、裏面の2ページを御覧ください。②は河川流水部に設置する橋脚につきまして、詳細設計時に、橋脚の設置位置にて実施した地質調査の結果、予備設計時のボーリング資料で想定していた礫径を超える玉石が橋脚位置で複数確認されました。このため、当初予定していた場所打ち杭基礎の施工が困難であることから、今回確認された大きさの玉石でも施工可能なニューマチックケーソン基礎へ変更するものです。概略図を資料の5ページに図示させていただいておりますので御確認ください。

次に、③でございますが、橋脚の基礎工法をニューマチックケーソン基礎で施工するに当たりましては、水を遮断するため、河川内に土砂を盛土し築堤する必要があります。このことから、仮設の栈橋を架ける仮栈橋工法から、橋脚工事を行う場所を囲むように盛土する築堤工法へ変更するものでございます。こちらについても概略図を資料の6ページに図示させていただいております。

次に、（2）の事業期間及び全体事業費の変更でございます。事業期間については、全体工程を見直した結果、旧橋梁撤去を含めた事業の完了を令和16年度から令和17年度に変更するとともに、全体事業費については工事内容の変更や令和3年度末までの建設資材等の価格上昇も考慮したところ、約76億円から約131億円へ増額となる予定です。

また、（3）の県受託事業に関する協定につきましても、橋梁の設計内容の変更によりまして、橋梁工事の完了を令和12年度から令和13年度に変更するとともに、委託事業費については約43億円から約86億円へ増額となる予定です。

最後に、4の「今後の予定」でございますが、事業期間及び事業費の変更に伴い、県受託事業の協定内容を一部変更し、令和14年度の供用開始を目標とし、今後も三重県の技術支援を受け事業を進めてまいりたいと考えております。

以上、「高向小俣線ほか1線整備事業の経過と予定について」御説明申し上げます。何とぞよろしくお願いいたします。

◎上村和生委員長

本件は報告案件であります。特に御発言がありましたらお願いをします。

三野委員。

○三野泰嗣委員

（3）の県に委託を予定している橋梁部の工事費なんですけども、今の43億円から86

億円に増額ということで説明をいただきました。簡単で、おおよそ大丈夫ですので、ちょっと内訳のほうだけ教えていただいてもよろしいでしょうか。

◎上村和生委員長
基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

橋梁工事費の増額分の内訳でございますが、支承構造の変更のものが約4億円、橋脚の基礎形式をニューマチックケーソン基礎へ変更したことによるものが約20億円、河川内の仮設工法を築堤工法に変更したものが約8.5億円、その他、河川協議によります橋梁下の護岸整備等、その他の工事も合わせまして約10.5億円、合わせまして約43億円の増額となります。以上でございます。

◎上村和生委員長
三野委員。

○三野泰嗣委員

ありがとうございます。今お聞きした内訳の中で、ちょっとその額が一番大きいニューマチックケーソン基礎、資料にもあるんですけど、もう少しだけちょっと簡単に説明をお願いしますか。

◎上村和生委員長
基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

資料の5ページを御覧ください。ニューマチックケーソン基礎工法について説明させていただきます。コップを逆さまにしたような6メートル掛ける13メートルの大きな躯体をコンクリートで築造します。その内側に圧縮した空気を送ることで、地下水の侵入を防止します。その中で、機械による掘削を行いながら、躯体を地下へと沈めていき、最終的には築造した躯体を橋脚の基礎とする工法になります。以上です。

◎上村和生委員長
三野委員。

○三野泰嗣委員

詳しい説明ありがとうございます。この基礎は工法的にちょっと特殊で、珍しいものかちょっと最後にお聞かせ願えますか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

ニューマチックケーソン基礎工法が、特殊であるかとの御質問でございますが、海や川に構造物を築造する場合に採用される工法であります。ニューマチックケーソン基礎工法は、私どもが工事の積算に使用しております三重県積算基準にも記載されており、特殊な工法ではないと考えております。以上です。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

他に御発言はございませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

報告なので端的に数点だけお伺いさせていただければと思います。

これ数字を聞いて大変心苦しいところあるんですけども、全体の事業費、これの中で全体も、できれば県も一緒に報告をいただければと思うんですけども、それぞれの割合か、負担割合だけ、国の交付金がいくらでとか、国の補助がいくらでとか、含めて負担割合だけまず教えていただけますでしょうか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

今回この事業の総額につきましては、先ほど約131億円と報告させていただきました。この中で、橋梁にかかる部分、県に受委託しておる部分ですけども、約86億円、こちらにつきましては、道路メンテナンス事業という国の補助事業を活用して行っております。そちらの補助率は55%となっております。

次に、橋梁以外の道路部分、約45億円に対する部分は、社会資本整備総合交付金のほうを活用し、そちらの補助率としましては50%となっております。合わせまして、約69億円を国庫補助のほうで充当したいと考えております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

確認すけど、69億円以外の部分は全て市の単費ということですか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

約69億円以外の約62億円でございすけども、こちらのほうは、市の単独事業となりますけども、そちらのほうは交付税措置等も考慮して、そのうち約20%が市のほうに交付税措置されると想定しております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

私もそんなもんかなと思ったんですけど、ちょっと説明を改めてここで聞きたかったのがありましたもので、ありがとうございます。

あと、もう一点なんですけども、今回供用開始が1年後ろに延びたと思うんですけども、工法が変わったからなのか、それとも何なのか分かりませんが、少しこの事業の工事の進捗がどうなのかなっていうのをずっと気にはしておるんですけども、こういう工期が少し延びた理由と、今後の当然、間に合わせるという答弁だと思うんですけども、そのあたりちょっとお聞かせいただけますでしょうか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●見並基盤整備課長

まず事業期間の1年延伸につきましては、工法検討した結果、そのほかの項目も含めまして、適切な工程等精査した結果、1年延伸するということになります。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

工法の結果ということですね。これ行政としては言いづらいところなので、僕のほうから言わせていただきますけども、令和15年には、このまちは大きな行事を迎えると思います。なのでこのまちが遷宮とともに発展してきたというような話も、たくさん皆さん聞かれたと思うんですけども、そういう意味でも、ある意味この辺の時期ではきちっと、間に合わすようにというところちょっとあれですけども、そういった期待を持っている人も多分たくさんいると思いますので、今後、進捗の管理だけしっかりしていただいて、ぜひとも工期の遅れがないように、大分長い工事の話ですけども、だけちょっとお願いをして終わります。以上です。

◎上村和生委員長

他に御発言はないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

よろしいですか。

御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【所管事業の令和4年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について】

◎上村和生委員長

次に、「所管事業の令和4年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について」を御協議でございます。

本件につきましては、主要な事業について、常任委員会別に執行機関から事業の進捗状況や予算の執行状況等について、例年報告を受けております。令和2年度は11月24日に実施し、6事業について報告をいただきました。

過去の選定事業については、資料3-1、年度別選定事業表のとおりです。

今年度も5事業程度を選定をし、12月定例会までに実施することとしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

よろしいでしょうか。

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

今後の進め方でございますが、委員の皆様から報告の対象としたい事業がありましたら、9月5日、月曜日までに正副委員長または事務局の担当書記へ御連絡をお願いしたいと思います。

参考として、資料3-2、令和4年度歳出予算款別説明表を配付させていただいております。

委員から御希望されました事業等、正副委員長において、5事業程度を選定し、9月定例会中の常任委員会で決定したいと思います。併せて閉会中の継続調査の申出も決定したいと思います。

この件について皆さんから何か御発言がございましたらお願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

よろしいでしょうか。

御発言もないようですので本件については5事業程度を調査することとし、当局から報告をいただく事業の選定については正副委員長に御一任をいただきたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御異議なしと認めます。そのように決定をいたしました。

以上で、本日御協議願います案件は終わりましたので、これをもちまして産業建設委員協議会を閉会いたします。

閉会 午前11時03分